

着衣着火による火災に注意

使い慣れた火こそ、取り扱いに注意しましょう！！

着衣着火とは…

着衣着火とは、調理中にコンロの火が着衣の袖口などに燃え移ることや、何らかの火が着衣に着火する火災を言い、衣類の素材によっては、火がつくと、一瞬にして拡大し、大やけどを負うことがあります。

当消防組管内でも、食事準備のためコンロを使用していると、着衣にコンロの火が燃え移り、上半身を大やけどした事案が発生しました。

また、過去には着衣着火により、死亡事故も発生しています。



過去の発生事例

- 1 畑で枯草を焼却中、風に煽られた火が着衣に燃え移った。
- 2 仏壇で使用しているローソクの火が着衣に燃え移った。
- 3 コンロ使用中、着衣の袖などにコンロの火が燃え移った。

普段の生活の中で発生しています！！



着衣着火防止対策

- 1 毛足の長いものやゆったり垂れ下がったデザインのものなど、火がつきやすい衣類を着用している時の火の取り扱いには、十分注意しましょう。
- 2 コンロの上の調理器具などを移動させる場合は、必ず使用している火を消してから行いましょう。
- 3 コンロ使用時は、適切な火力に調整しましょう。
- 4 火に直接あたっていなくても、放射される熱により衣類などに火がつく恐れがあるので、注意しましょう。

もし着衣に火がついてしまったら…

すぐに水をかけて消火しましょう。

また、近くに水がない場合は、走り回らないでその場に寝転ぶなどして消火しましょう。寝転ぶことで、顔に火が来るのを防ぐ効果があります。

消火後は、必ず消防（119）へ通報しましょう。

- ・着衣着火を防ぐ、防災品もあります。
火が接しても着火しにくいエプロンやアームカバー等。
- ・着衣着火への不安低減を目的としたコンロも販売されています。
コンロの火に袖口が近づくとセンサーによりコンロの火が小さくなります。



火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。